

令和4年12月5日

市民の皆さまへ

庄原市役所 口和支所長
(総務室)

Tel. 0824-87-2111

fax. 0824-87-2057

行政文書の発行について

令和4年12月5日付けの行政文書をつぎのとおり発行します。



<回 覧>

1	環境しょうばら	環 境 建 設 部 環 境 政 策 課
2	庄原さくらスポーツクラブたより	教 生 涯 育 学 習 部 生 涯 学 習 課
3	田園文化センターだより	田 園 文 化 セ ン タ ー
4	やまどり 令和4年12月号	庄 原 警 察 署 口 和 駐 在 所
	犯罪情報官速報	
5	口和中学校だより「釜峰山」第41号	口 和 中 学 校
6	交通ひろしま 年末号 2022	広 島 県 交 通 安 全 協 会
7	ふれあい共同作業所くちわ広報誌 まあひといき	口 和 支 所 地 域 振 興 室 (社会福祉法人 八国見)

<各戸配布>

1	広報しょうばら 12月号	総 行 政 務 管 理 部 行 政 管 理 課
2	家族介護教室	社 会 福 祉 協 議 会

広島県人は、放つとけん人。「地域の子どもは、放つとけん!」「暗い夜道は、放つとけん!」

広 報

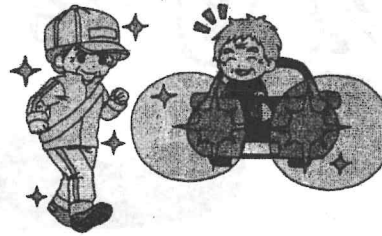
やまどり

発行
庄原警察署
口和駐在所
川東哲也
TEL87-2233

年末交通事故防止県民総ぐるみ運動を実施します!!

運動実施期間 12/1~12/10まで
『ゆるさない ハンドル・スマホの 二刀流』

- 歩行者の方へ
道路を横断するときは横断歩道を渡ること、信号に従うことその他、運転者に対して横断する意思を明確に伝え、安全を確認してから横断を始めるとともに、横断中も周りに気を付けましょう。
夜間出歩く際はLEDライトや反射材用品を活用しましょう。
- 運転者の方へ
交通ルールの遵守と歩行者や他の車両に対する「思いやり・ゆずり合い」の意識を持って、安全運転を心掛けましょう。
- 飲酒運転の絶無
年末は飲酒の機会が増えますが、飲酒運転は絶対にしてはいけません。
 - ・ 酒を飲んだら絶対に車を運転しない
 - ・ 車を運転する人に酒を勧めない
 - ・ 飲酒した人に車を貸さない
 - ・ 飲酒した人が運転する車に同乗しない



火災に注意!!

12月に入り、寒さが一層厳しくなってきました。冬になると暖房器具等を使用するため、火災が発生しやすくなります。

そこで、

- 寝タバコは絶対にしない、させない。
- ストープの周りに燃えやすい物を置かない。(安全装置があるものが好ましい)
- コンロを使う時は、火のそばを離れない。
- コンセントは、埃を清掃し、 unnecessary プラグは抜いておく。
- 住宅用火災警報器を定期的に点検する。
- 消火器等を設置して使用方法を事前に確認。
- 避難経路と避難方法を事前に確認。

し、火災を未然に防ぐとともに、発生した場合に適切に対応できるように、備えをよろしくお願い致します。

年末における犯罪抑止活動

広島県内の多くの方が「地域の安全は地域で守る」との思いを持って、防犯パトロールや子供の見守りなどの自主防犯活動に参加しています。地域一体となって、安全安心を実感できるまちづくりを進めましょう。

また、県内では特殊詐欺が多発しており、これから年末に向け、不審電話の増加も予想されます。

電話でお金のお話が出たら
詐欺の可能性大!!



管内の事件・事故発生状況

区分	10月末現在	前年同期比
事件	刑 窃盗犯	28件 +12件
	法 其他	29件 -4件
	犯 合計	57件 +8件
	特殊詐欺	1件 -1件 78万円 -322万円
事故	人身事故 件数	12件 -3件
	死者	1人 -2人
	負傷者	13人 0人
	物損事故	581件 +10件

各種SNSの広島県警【公式アカウント】を見てね!

サンフレッチェ広島C.R.Mの森崎和幸さん、アンバサダーの森崎浩司さんが出演した防犯や交通事故防止の防犯メッセージ動画です。

3つのバージョンがあります。ぜひご覧ください。

二次元コードを読み込んで動画を見てね

- 家・車・自転車
- カギの三本の矢
- 反射材・ライト
- 自分を守るディフェンダー
- 横断歩行者に注意
- 止まらないあなた レッドカード



犯罪情報官 速報

オレオレ詐欺の高額被害が発生！

2920万円！！

お金が必要なんだ。。。



広島、尾道市内で、医者や息子になりすましたオレオレ詐欺が多発中。

手口

1 息子をかたる犯人から電話（番号は非通知や表示圏外）

- ①喉が痛いから病院に行ったら手術が必要と言われた（ガラガラ声）
- ②病院や公衆電話に財布・携帯電話を忘れた（中身がなくなった）
- ③会社に多大な損害を与えてしまった
- ④お金が必要だから、用意して欲しい
- ⑤上司とその息子がお金を取りに行く

2 上司の息子と思われる犯人が来訪

電話を切ると、すぐにと受取役の犯人が自宅に来る

↳ そして…

息子のためにと、
上司の息子と思われる犯人にお金をだまし取られる

考えたり、確認する余裕がない！だからこそ冷静に！

お願い

① 本人に確認

慌ててお金を用意せず、普段から連絡を取っている息子の電話番号に連絡して、話の内容を確認して！

② 110番通報

電話でお金の話は詐欺！
すぐに警察に通報して！

③ 電話対策

非通知電話の着信拒否！
在宅中でも留守番電話の設定！



釜 峰 山

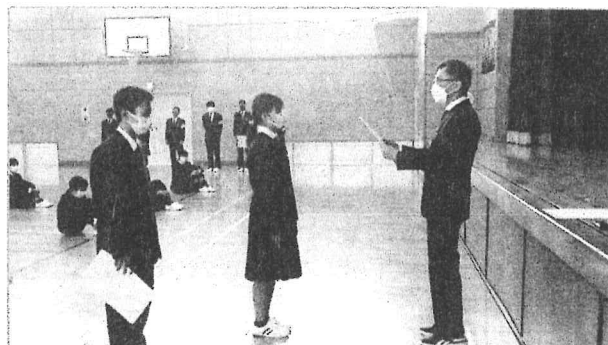
令和4年11月11日(金)

発行者：校長 大里 康暁

生徒の活躍！

11月8日(火)に、表彰伝達を行いました。今回は、「令和4年度庄原市児童生徒科学研究審査会」と英語検定の表彰です。

科学研究は、自分の課題を発見することが、まず大きな関門になります。自分の興味があるもので、しかも科学研究にふさわしい課題を見つけることは、とても困難なことでしょう。それでも自分の身の回りやこれまで学んだことをよく見直して、素晴らしい課題と巡り合ったとき、科学研究は深く興味深いものになる



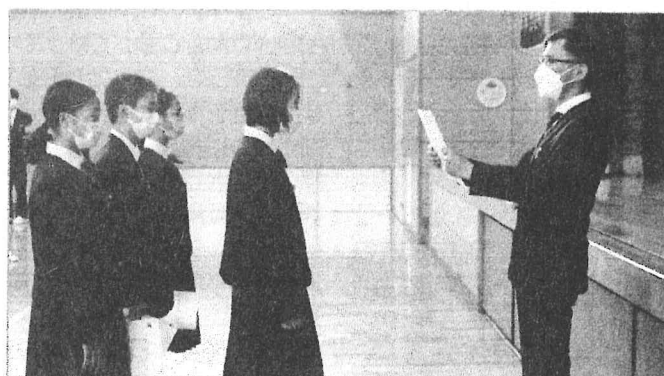
ことと思います。また、その課題をどう探究していくか、その筋道を考えることも簡単ではありません。試行錯誤しながら、いろいろな角度から実験や観察を繰り返してやっと結論にたどり着きます。また、その過程をわかりやすく、表現することも求められます。

このように考えてみると、内容的には理科にかかわるものではありませんが、たくさんの資質・能力が求められる高度な学びであると言えます。

今年度は、3人の生徒が賞に入りました。きっとたくさんの時間を使って取り組んだことと思います。おめでとうございます！

入 選	幹 戸 葵	「口和に生える植物」	生物
入 選	平 川 貴大	「飛ばせ!! 入浴剤ロケット 炭酸水Ver.」	物理
佳 作	田 部 花朋	「なぜ蒸しパンの色が変化したのか」	化学

今回は、英語検定の合格者の表彰披露でしたが、漢字検定・英語検定・数学検定にたくさんの生徒が挑戦しています。合格できず、悔しい思いをしながらも、何度も挑戦する姿には合否を超えた感動を覚えます。皆さんの挑戦をいつも応援しています。様々なことを「やってみる」気持ちを大切にしてください！



文化祭！～メッセージ～

前号でお知らせしたように、たくさんの生徒へのメッセージをいただきました。皆さんの頑張りが、多くの人の心を動かしました。一つ一つのメッセージは、皆さんへの声援です。しっかりと読んでください！

- 各文化芸能の歴史的背景を調べ、その意義を理解しての発表だったと思います。大変よかったです。
- 短い期間の練習でお疲れさまでした。息がそろってよかったと思います。口和に生まれ育ち、長年口和に住んでいる私でも口和の伝統芸能の歴史までは詳しく知らないことがたくさんありました。口和音頭の歌詞にもあったように、「豊かな米の町」に生まれ育ったことを誇りに、これからの人生に活躍して行ってほしいです。
- 生徒たちが主体となりやっていたので、とてもよかったです。発表を通じて、口和の文化等を知る機会となったのではないかと思います。よい文化祭でした。ありがとうございました。
- コロナ禍で自由の利かない中、よく練習できていたと思う。冬の備神太鼓、地響きのように心が震える迫力ある演奏で魂も震えました。これからも自分をさらけ出して前へ進んで行ってください。ありがとうございました！！
- とてもよかったです。伝統を伝え続けてほしいと思いました。頑張っている姿に感動しました。ありがとう。
- これからやる演目について学んだことの発表があって、初めて知ることがあったり、説明を聞いた後、演技を見たので意味を考えながら見ることができました。どの演目も真剣にされていて、おもしろかったです。準備もてきぱき動かれていました。最後の太鼓は壮大でした。コロナもどんな厄災も吹き飛びそうです。
- 生徒主導となって行事が進められており、見ごたえがありました。どの演技も一生懸命な姿に感動しました。
- 今年は、直前でコロナの影響で学校に通えなかった生徒さんも多かったと思います。練習もその分できなかったりと大変だったろうなあと感じていました。ですが、そんなことをみじんも感じさせず、立派な演技ができていたと思います。皆さん、よく頑張りました。感動しましたよ。ありがとうございました。
- 口和の芸能について、改めて知ることができました。口和に住んでいるけど、知らないことがたくさんありました。最近、コロナの影響でみることのなかった口和の芸能を久しぶりに見られて、とてもうれしく思いました。ありがとうございました。盆踊りの歌声は、生徒の皆さん、毎年とても上手です。
- 口和の伝統芸能をよく調べて発表したり演じたりしており、口和愛がよく伝わってきました。平田先生の歌が素晴らしかったです。
- 短い練習時間、コロナの影響もある中でしたが、思っていた以上の完成度でした。素敵な経験をさせてくださった先生方や指導者の方々に感謝感謝です！！
- 文化祭を中学生の手ですべて行っていたことに感動しました。故郷について調べ、発表したものもステキでした。こうしたことがふるさとを大切に、いつかふるさとに帰ってきてくれるものと感じました。作品も力作が多く、とてもよかったです。百花繚乱、ぴったりでよかったと思います。
- 四季すべてよく演技していました。太鼓も圧巻でした！！
- 前週休みが多い中、よく頑張っていました。
- 1つ1つの動きに、力強さ、しなやかさ、キレがあってとても素敵でした。
- 口和の冬の迫力がすごかったです。
- 短い練習時間でよく頑張っていたと思います。
- 生徒数も少なく、コロナ禍で大変な中でよく頑張っていました。
- 大きな声ではっきり発表できたらよかったと思います。
- みんな一生懸命取り組んでいたと思います。
- コロナで休んでおられる生徒さんもいる中、長い間練習して一生懸命できていたのでよかったです。
- 他学年含め、上手にまとめて演技できてよかったです。
- 一人一人が主役となり、頑張っていたと思います。最後の全員で行う太鼓の迫力はとても素晴らしかったです。心に響き渡りました。
- コロナで行事やイベントが中止になり、口和の伝統芸能に触れる機会がなくなり、久しぶりに田楽や盆踊りの音楽を聴き、踊りを見て、懐かしくて涙が出そうになりました。地域の伝統芸能を引きついでいくことは、とても大切なことだと改めて感じました。中学生がこうして引き継いで大切に思っていてくれることは、とてもうれしいことだと思いました。3年生が演技でみんなを引っ張っているなと感じました。コロナの影響で、文化祭で合唱がなくなってしまったのはとても残念です。
- 口和の四季、とてもよかったです。内容を深く知ることによって、発表も表現もよくなったのではないのでしょうか。コロナ禍でもあり、文化祭の準備は大変だったと思います。他の発表も見たかったと思います。来年こそは期待しています。
- 口和の四季をそれぞれの担当の調べ学習を行い、発表していた。今までこういう内容の発表はなかったので、わかりやすい発表だと思いました。それぞれの四季をうまく表現していて素晴らしかったです。生徒の皆さん、お疲れさまでした。テーマも達成できていましたね。
- 緊張感あり、一生懸命さあり、大変良かった。それぞれの伝統芸能のこともよく学んでおられた。それを今後に生かしてください。
- コロナ短縮で残念でしたが、子供たちは頑張っていたと思います。発表の時、特に1年生は声を張って伝えるようにすれば、もっともっと見ごたえのある発表になるかと思っています。今日はありがとうございました。
- 生徒の皆さんは大変緊張していたようでした。来年度は皆がもっと笑顔で、笑いがある発表になればより良いと思います。
- 短い時間でよくまとまっていた。三年生のリーダーシップと一、二年生の協調性を感じることができました。

まあひといき

発行:社会福祉法人 八国見

就労継続支援B型 ふれあい共同作業所くちわ

HP: <http://yakunimi-kuchiwa.jp>

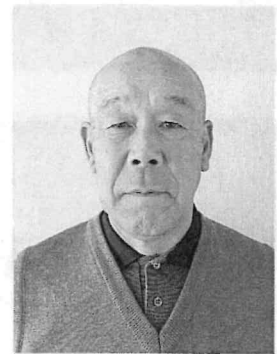
Tel:0824-87-2556 Fax:0824-74-6016 発行年月日:2022年11月30日

今月のことば

自分のためでなく、

人のために働け

森永正憲理事長 叙勲



令和四年秋の褒章の受章者が十月二一日(金)の閣議で決定され、十一月三日(木)付けで発令されました。

厚生労働省の関連では一五七名の方が受章されました。

内訳は、社会奉仕活動に従事し、顕著な実績のある個人などに授与される**緑綬褒章が一五名**

十一団体 その道一筋に業務に精励し衆民の模範となる方を対象とする**黄綬褒章が八三名**

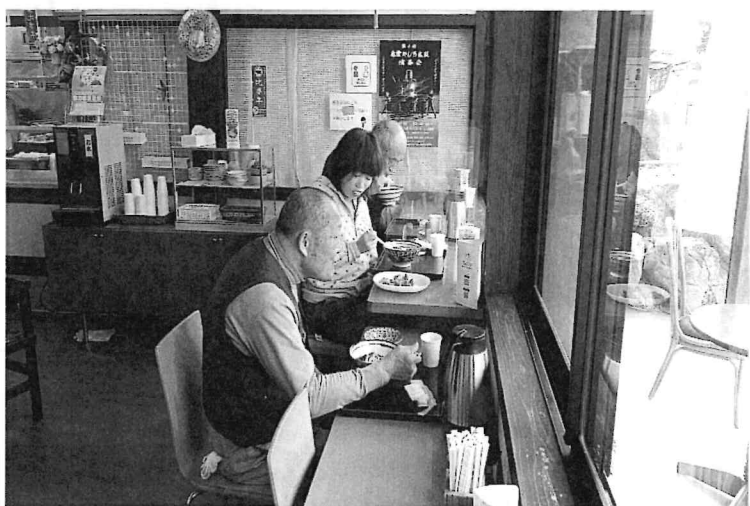
医療・社会福祉活動などの分野で公衆の利益を興した者、または民生・児童委員などの事務に尽力した方を対象とする**藍綬褒章が四八名**です。

森永理事長の叙勲は藍綬褒章で、社会福祉活動と二五年という長い間保護司を務められた功績が評価されました。誠におめでとうございます。

楽しかった紅葉狩り

11月8日(火)、島根県仁多郡奥出雲町の絲原記念館に紅葉狩りに行きました。物産館の大月亭で昼食を食べ全員で出発です。この日は天候にも恵まれ、秋真っ盛りの中国山地を気持ちよくドライブしました。久しぶりのお楽しみ会ですから、皆さんとても喜ばれた半日でした。





クリスマス会開催について

今年も下記の通りクリスマス会を開催します。

皆さん全員で楽しみましょう。

◇ 期日 12月20日(火)

◇ 日程 ・午前中は通常作業

・11時作業終了

・11時15分 物産館に向け作業所出発

・11時30分 大月亭で昼食(きつねうどん、いなり寿司、鶏唐揚げ)

・13時 作業所でゲーム(商品あり:空クジなし)

ケーキを食べて終了 送迎

※今年もコロナ禍の為、職員・利用者で行います。



あの人語る障害への思い、生きること

「社会福祉法人」全日本手をつなぐ育成会発行の月刊誌「手をつなぐ」に掲載されている原稿を紹介します。

「きょうだい」でも一人の「私」として

弁護士 藤木和子

三歳下の弟の耳が聞こえないのが分かったのは、私が小学校に入る直前でした。その時から私は「きょうだい児」として生きてきたことになりました。

通っていたのが難聴学級のある小学校だったこともあってか、学校でいじめられたり、からかわれたりした記憶はほとんどありません。ただやっぱり周囲からじろじろ見られたり、陰口をたたかれたりすることはあつて、そのせいか「他の子よりちやんとしていなきゃ」という意識はいつもあつたような気がします。

でもよく言われる「お姉ちゃんだから弟をたすけてあげなきゃだめ。」という言葉には、すごく違和感がありました。私の中では、弟は本気でゲームをしたりけんかをしたりする「対等な相手」それが過度に「かわいそう」扱いはされるのが抵抗があつたんですね。一方で大変な思いをしながら療育や学校に通っている弟に

対してどこか申し訳なさもあつたりと、色々な感情が交錯していました。

父も母も、私と弟、両方のことをしっかりと見ていてくれたと思えます。ただ「きょうだい児にどう接するべきか」というような意識は、当時は社会全体にもまだまだ薄かった。学校でいい成績を取ったら母に「お姉ちゃんはこのなにできなくてもいい、その分弟に分けてあげられればいいのに」と言われて、ショックを受けたこともあります。

また、弁護士の父は「弟の分も」という私への期待がすごく強くて、それが重たかった。高校生の時は反抗心が爆発して、勉強は放り出し、髪の毛も真っ茶色に染めて、父親とけんかしてばかりの時期もありました。それでも母も父も逃げずに全力で向き合ってくれたので、その事には感謝しています。

そうして反発しながらも、最終的に父と同じ弁護士という仕事を選んだのは、子ども



ものころにテレビで見た薬害エイズ事件などが印象に残っていたからだと思います。法律を通じて、差別や

不平等に対して声をあげたり、それをサポートしたりできる人になれるのではないかと考えたんですね。現在は、障害のある人やその家族から相談などについての相談を受けることもよくあります。きょうだいとの関係で悩んでいる人もこんなにたくさんいます。また、改めて実感する日々です。判の弁護士としても活動しています。

「きょうだい」たちの出会い

「きょうだい児」が集まる会に初めて参加したのは二十代前半。就職のことで迷っていた上に付き合っていた人に弟の障害のことを話せなかったりと、人間関係でも行き詰まっていた時期でした。とにかく誰かに相談したい、自分の状況を分かってくれる人と話したいという、すがりような思いがあつたのです。

初めて行ったときから「みんなまるで、昔からの知り合いみたいだ」と感じました。きょうだいの障害の重さや種類は違っても、「きょうだい」としての自分をずっと意識して、人に言えない悩みを抱えてきたところや、周りの視線や陰口に対して「なにくそ」と思い続けてきたところなど、共通点がたくさんあるんですね。もともと早く、こういう場に出会いたかった。同じような立場の人に、

それぞれの経験を聞いたりしたかった。状況を理解した上で見守ってくれて、ときには父や母にも「きょうだいにはこう接してあげて」とアドバイスをくれるような人がいたらどんなによかっただろう……。そう感じたこともあつて、聴覚障害に限定したきょうだい会や、二十〜三十代の若い世代向けの会など、自分でもいろいろな場を立ち上げて活動しています。

弁護士としても、きょうだいとしての活動の中でも、一番伝えたいのは「きょうだいだから」ではなくて、「自分は自分」でいいんだよ、ということ。それは私が、自分が子どものときに誰かに言ってもらいたかつた言葉でもあります。

自分や家族の障害のあるなしも、性別も関係なく、誰もが「私」として生きていっていい。いろんな活動を通じて、そう発言しつづけたいと思っています。

ふじき・かずこ

一九八二年生まれ。二〇一二年弁護士登録。「聞こえないきょうだいをもつソーダの会」代表を務めるなど、複数のきょうだい関係団体の運営に関わる。「きょうだい・家族」「法律・人権」をテーマに講演活動も行っている。

能登の「あえのこと」と

ふれあい共同作業所くちわ 施設長 松本信司

皆さんは「あえのこと」という祭りをご存じですか？

十二月を迎えるこの時期になると私は能登の「あえのこと」というお祭りを思い出します。

奥能登地域（輪島市、珠洲市、穴水町、能登町）の農家に古くから伝わる田の神様を祀り、感謝を捧げる農耕儀礼で、「あえもてなし」

「こと祭り」を意味する民俗行事です。

一九七六年に国指定重要無形民俗文化財に指定され、二〇〇九年にはユネスコの無形文化遺産に登録されました。



毎年暮れの十二月五日と春の二月九日、年二回営まれる農耕儀礼は、以前NHKが詳しく取り上げ放送したのをよく覚えていました。

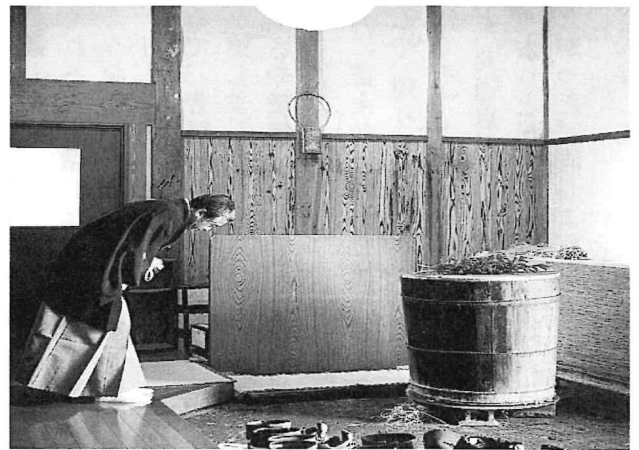
暮れは田の神様を家に招き入れ、一年の収穫に感謝し、春を迎えるまで家の中で過ごしてもらいます。また、春になると五穀豊穡を祈願し田の神様を田んぼへと送り出します。

暮れの収穫祭は、コメの収穫に感謝して、農家の家々が「田の神さま」を招いてご馳走でもてなす独り芝居を演じます。もてなしの仕方は家々で異なりますが、能登近郊で獲れた山海の幸を用いておこなわれるのは共通しています。

一人芝居のおもてなし

また、共通することがもう一つあります。それは、田の神さまは目が不自由という設定になっていることです。

これは「あえのこと」の祭りにとってとても大切なことであり、農家に代々伝わるこの伝統行事は、口頭伝承ではなく行為伝承によって今日まで受け継がれてきました。



ホスト役の家の主人は田の神さまの障害に配慮して一人芝居を演じます。

近くの田んぼに田の神さまを迎えに行き、座敷まで案内する際に、階段の上り下りでは介添えをします。また、供えた料理を一つ一つ動作を交え丁寧に説明したりお風呂にも入っていました。

もてなしを演じる主人たちは、自らが目を不自由だと想定しどう接してもらえば満足が得られるかと逆の立場で考え、独り芝居の工夫をします。

各農家の子ども達は親の仕草を盗み見て祭礼の段取りを自然と覚えていくのです。

障害者と共生

今、私は「ふれあい共同作業所くちわ」で毎日障害者の方々と触れ合い生活しています。

勤めた最初は、利用者一人一人が強烈的な個性を持っておられ、私たちには当たり前のことがなかなか理解してもらえないことがよくありました。「どう言えばわかってもらえるのか？」悩んだ時期もありましたが、丁寧に話しかけ一つ一つ具体的に話せばよく理解してもらえることが分かりました。逆の見方で言えば、今まであまりにも乱暴な言い方で済ませていたことが良く分かりました。

この農耕儀礼は健常者のちょっとした気遣いと行動で、障害者と共生する場を創ることができるところを教えてください。「もてなし」の原点がここにあるのではないかと考えます。

相手を気遣い相手の立場に立って考えようとする優しさが共生社会の確立につながる事が良く分かりました。

